

みことばを生きる



「放蕩息子」のたとえ話と 兄の奇跡的な救いのできごと

カナダ・バンクーバー Willingdon Church 所属 バス 麻紀

*ル*カ15章 「放蕩息子」のたとえ話は、兄が救いに導かれ た、忘れられない瞬間を思い出させる箇所です。

舞踏家の兄の放蕩生活と結末

日本舞踊家だった兄は、生活習慣から体を壊して舞台 に立てなくなってからというもの、生きる希望を失って自暴 自棄になり、更にお酒を飲んで体調を悪化させて、入退 院を繰り返していました。最後に入院した際には、患って いた病とは別に心内膜炎を発症し、それが原因で脳梗塞 を二度起こし、もう治療法はないと医師に告げられたの です。ただただベッドの上で死を待つ日々を送る兄を、何 とかお救いくださいと祈る毎日でした。手紙で福音を伝え てはいましたが、全く聞く耳を持たなかった兄に、今更ど のようにアプローチすれば良いのかわかりませんでした。

きっかけを得て「放蕩息子」のたとえ話を読む

そんなある日、初めて見かける看護士さんが病室に入っ てきて言いました。「お兄さん、こんなこと言っていました よ。『妹は真面目だけど僕は放蕩者だ』って。」彼女が部 屋を出るとすぐに、私は兄に言いました。「お兄ちゃん、そ んなこと言ったの?……聖書に放蕩者の話があるから、今 から読むね。| 脳梗塞で体が動かず、また言葉を発するこ とが困難になっていた兄は拒絶することができません。私 は兄の耳元で放蕩息子のたとえ話を読み聞かせ、「このお 父さんは神様なんだよ。お兄ちゃんもこのお父さんのところ に帰ることができるんだよ。| と話しかけました。すると、 兄がわずかに手を動かして、天井を指さしたのです。何か あるのかなぁと天井を見上げると、今度は自分の胸を指さ しました。胸が痛む?大丈夫?と兄に聞いた瞬間、ハッとし ました。「もしかして、お兄ちゃんもお父さんのところ、神 様のところに帰りたいの?」 すると兄はうなずいたのです。 突然の展開に信じられない私は、もう一度兄に、「イエス様 を信じたいってこと?」と尋ねると、今度は親指を立てて 「Good」のサインを見せてくれました。疲れたのか手を下ろ してウトウトし始めた兄を横に、私は目の前で起こっている ことが信じられず、「主よ、今のは何でしょうか。本当に兄 は神様を信じたのでしょうか。| と半信半疑で祈っていま した。そして目を覚ました兄に、もう一度確認したのです。 すると兄はもう一度「Good」のサインを出してくれました。

兄が病床で受洗、そして帰天

2日後、私は主人と、牧師先生ご夫妻と一緒に兄を

訪ね、牧師先生が兄に短く福音を伝えて兄の意思を再確 認し、その場で洗礼を授けてくださいました。顔の表情も 失っていた兄ですが、この日は本当に嬉しそうに笑ってい たのです。そしてその一か月後、兄は私が見守る中で天に 召されていきました。御言葉には力があること、そして聖 霊様が働かれるとき、人はこんなにも素直に、あっさりと 主を信じるのだということを目撃し、神様の御業の素晴ら しさを実体験しました。

私も「内蔵する憐み」をいただいて、主の証に生きます

ルカ15章の3品1セットのたとえ話に出てくる、主のみが 主語となることができる「内臓する愛」という言葉がとても 胸に刺さりました。私も、母も、兄も、この内臓する愛を もって神様に捜し出され、救っていただいたのだと改めてそ の愛の大きさに驚いています。探し出してくださってありがと うございます!と感謝の気持ちが溢れます。そして私たちが 救われたことを天では大喜びしてくださっている! 本当に驚 くばかりの恵みです。聖書に出会い、本当の愛というもの を知りました。同時に、自分はなんと愛の足りない人間だろ うかと愕然としました。今でも、このくらいまでやればいい か、ここまでやる必要はあるのかなと、愛の出し惜しみを する自分がいたり、感謝や見返りを100%求めずに愛せてい ない自分がいたりしてがっくりすることがあります。人間が 主語になり得ない愛、人間には備わっていない愛があるこ とを自覚したいと思います。それでも「愛しなさい」と主が 命じられるのは、私たちには良いお手本と御言葉による教 えが与えられていること、そして何より主ご自身が私たちを 助けて、人を愛せる器に造り変えてくださるからだと思いま す。兄はある意味本当に「放蕩者」でしたので、正直兄を 愛するのは困難でした。放蕩息子の兄のように、私も兄を 裁いていたのだと気づかされます。主が私を整えてくださら なければ、とても兄に寄り添うことはできませんでした。主 はまず私の心を整えてくださり、そして兄の心を少しずつ開 いてくださって、兄妹間の関係を良いものに変えてください ました。それから主は看護士さんを送ってくださったので す。これが失われたものが戻ってくるまで丁寧に捜してくだ さる主の「内臓する愛」の方法だったのですね! 今も愛する ことが難しいと感じる方を、主は私の身近に置かれていま す。その方にも主は内臓する愛を持っておられることをしっ かりと心に刻みたいと思います。そして主が愛されるように 私もその人を愛せるように助けてくださいと祈りつつ福音を 宣べ伝える者でありたいと思います。



マナカフェ活動報告 ~通信学習生の交流の場を~

マナカフェ東京 世話役 小林 英仁

●活動内容

マナカフェの活動は、通信生は教室生と異なり、どうしても交わりが希薄となり、孤独に学びを行っていること が多いため、通信生同士の交流の場として、1年ほど前から始まりました。当初は、月に一回、都内のファミレス 等に集まっていましたが、場所の確保が難しいことから、新宿の淀橋教会の部屋をお借りして活動していました。 しかし、人が集まるのがなかなか難しいため、現在は、毎月の集まりはZoomで行い(毎月第四土曜日 20 時~ 21時)、年に2-3回、対面で集まる企画を開催する形で活動を行っています。

前回対面企画として、昨年12月に行ったクリスマス企画では、重田学長に参加していただきました。今回、対 面企画第2弾のイースター企画として、島田先生との対話集会を開催しました。次回の対面企画は、8月、9月く らいに行いたいと考えています。

●イースター企画

4月27日(土)の午後、上野のJTJ教室において、マナカフェの活動のイースター企画として、島田哲也先生 との対話集会を開催しました。11名のJTJ学生が参加し、交流の時を持ちました。

「ただ1つの願い」、「花も」をともに賛美し、神様に導かれた証し、RPG(*1)の祈りの3ステップ、霊性につい てなどを分かち合いました。

神様に導かれた証しでは、神様のドラマチックで、偉大な働きについてのお話をお聞きすることができました。 また、霊性とは目に見えないものとのつながりであり、そのためにポイントとなるのは、詩編である、という島田 先生のお話は、大変興味深いものでした。

よい交流を持つことができ、祝福と励ましの時間でした。感謝いたします。

●ヴィジョン

対面での交流を大切にしたい。そのため、北海道から九州、 沖縄まで全国に交流の拠点を広げていきたい。まずは、「プロ野 球球団があるところに、マナカフェを」を目指して。

マナカフェの活動に興味がおありの方は、JTJ事務局にぜひお 問合せください。

JTJ事務局メールアドレス jtj@jesustojapan.com

(*1) RPG (Revival Prayer Group) の祈りの 3ステップにつきましては、





マナカフェ開催のご案内

◆マナカフェ東京 $6/22 (\pm) 20:00 \sim 21:00$ オンライン開催(Zoom)

◆マナカフェ関西

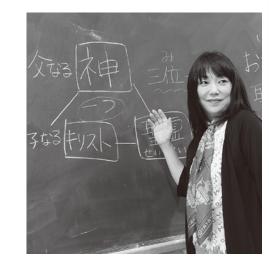
7/15 (月・休) 13:30 ~ 15:30 会場:大阪市中央公会堂第8会議室



★申込は、JTJホームページの学生ページから https://jesustojapan.com/student-2/







パウロがテント職人で 生計を立てたように

聖光学院高等学校 聖書非常勤講師 吉田 香苗(福島県)

2023年3月21日にJTJ宣教神学校を卒業しまし た。同時に按手礼を受けました。信仰をもってから35 年目になります。JTJ宣教神学校で1年目は信徒牧師 コース、2年目は牧師志願コースに転科しインター ネットコースで2年学びました。なぜ、JTJ宣教神学 校で学ぶことになったのかをお話しします。

現在、私は福島県伊達市にあるプロテスタントの キリスト教主義学校・聖光学院高等学校で週6時間、 高校1年生に新約聖書を教えています。聖光学院高校 は毎日礼拝の時間があり、私は音楽の教員免許を 持っているので、11年前からパイプオルガンの奏楽も していました。4年前、新井秀校長(日本基督教団正 教師)の導きで、宗教の免許を取得し聖光学院高校の 聖書の教員へと導かれたのです。さらにその年、長崎 のキリシタン殉教の地を旅するツアーから帰ってきて間 もなく「私に従いなさい」という主からの語りかけがあ り、私は「はい!」と答えました。すぐに「牧師になり たいです」と新井校長に相談すると「聖書教員をしな がらインターネットで学べる神学校に通った方が良い」 とのことでJTJ宣教神学校が候補にあがりました。知 人の牧師2人にも相談したところ、JTJ宣教神学校の 名前があがったので、これは神の御心だと思いました。 入学を決め、学びを始めたのは4月末になりましたが、 神様の導き以外の何ものでもないように全てがとんと ん拍子に進んでいきました。

JTJで学んでいた時の、私のある日の一日です。 聖光学院高校で聖書の授業をし、礼拝のオルガン奏 楽を終えて、帰宅したらパソコンを開き、JTJ宣教神 学校のインターネットコースで講義を聴きました。すぐ にレポートを書いたあと、自宅でピアノ教室もしていた

ので、夕方から数時間生徒にピアノを教えました。そ して夜にまた講義を聴きました。日曜は自宅で女子会 (女の子だけの日曜学校)、礼拝もしていました。今思 うと自分でもよくやっていたと思います。これは指導牧 師の新井校長を始め、家の教会員の両親の、とりなし の祈りのおかげだと思っています。牧師としても歩み初 めましたが、信徒の時以上にとりなしの祈りが必要と 感じています。

JTJで学んで牧会で役に立っていることが沢山あり ます。その中でも「伝道にお金をけちってはならない」 とおっしゃった中野先生の言葉をモットーにしていま す。ですから、私はパウロがテント職人で生計を立て たように、これからも働きながらイエス・キリストを伝 えていきます。

